



里山に育む生きものたち

48 キジムシロ (バラ目 バラ科)

学名 *Potentilla fragarioides*
L. var. major Maxim

文・写真 / 安 昌美

四月になりますと本当は春になった気がします。四季のある日本でも、特に落葉樹林が身近にある所が、季節の移り変わりが一番はつきりしています。茨城県内ではブナ帯が一番でしょうが、町内でもコナラやクヌギなどの林がよくわかります。しかし、今はコナラやクヌギの需要が極端に減少しているようで、下草が刈られなくなり、笹が繁茂している所が多くなつたように思います。笹が密生してしましますと、林下の植物の種類は少なくなり、でもまだ町内の林下でも見ることができると紹介します。

▼キジムシロとは

バラ科キジムシロ属に属する多年草で、三〜五月に黄色の花をつけます。花はヘビイチゴなどに似ていますが、赤いイチゴのような果実はつきません。和名のキジムシロは、葉を広げている様子からキジ(雉)のムシロ(篋、蓆)の意味でつけられたとされています。キジは町内でも見られますが、今は子ども達に「むしろ」と言っても分からない子がいます。座布団はわかるようですが、「むしろ」は日常生活から遠くなっているようです。水田雑草にアゼムシロという植物があり、現地で畔は説明できるのですが、やはりムシロの説明は大変です。国内では北海道から沖縄まであり、変化が多いとされています。国外では朝鮮に知られています。平地から山地

の明るい林下や林縁、草地に生え、茨城県内でも各地に見られます。町内ではこれまで野帳に記録しただけでも、網掛、海老沢、大戸、下石崎、城之内、常井、中石崎、生井沢、野曾、南栗崎、宮ヶ崎、前田で見えています。しかし、野草であつて雑草ではありませんので、耕作地や住宅街などにはありません。花粉は虫が運ぶとされていますが、茨城町ではどんな虫が花にくるのでしょか。

▼キジムシロの仲間

町内のキジムシロ属の植物にはヒメヘビイチゴ、オヘビイチゴとミツバツチグリーがあり、各地に普通に見られます。花はすべて黄色です。ヒメヘビイチゴとミツバツチグリーは三枚の小葉を持ち、オヘビイチゴの葉は掌状複葉で小葉は5枚です。キジムシロの葉は羽状に五枚から七枚の小葉を持つ奇数羽状複葉となっています。また、ヒメヘビイチゴとオヘビイチゴは水田地帯や湿った所に生え、林縁や日当たりの良い草地にはほとんどありません。ミツバツチグリーはキジムシロと似た環境に生育しています。ミツバツチグリーは小葉が三枚で、ツチグリーは根茎の部分が膨らんで塊になっていることから名が付けられています。しかし、この塊茎は食べられないようです。これからは暖かくなりますので野や山に出て、自然を満喫してみませんか。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤1080 TEL 029-292-1111 FAX 029-292-6748
ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

茨城町の人口と世帯数

※カッコ内は前月比です。
(住民基本台帳 平成28年2月末現在)
◆総人口 33,441人 (-40)
男 16,675人 (-22)、女 16,766人 (-18)
◆世帯数 12,642世帯 (-16)

茨城町民憲章

- 1 ふるさとの自然を守り、美しい環境の町をつくりましょう。
- 1 からだをきたえ、教養を高めて、すこやかな町をつくりましょう。
- 1 隣人や家庭の愛を大切にして、まごころのかよい合う町をつくりましょう。
- 1 自分の仕事に責任と誇りをもち、活気に満ちた町をつくりましょう。
- 1 文化遺産を愛護し、先人の努力に感謝できる町をつくりましょう。

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インクを使用しています

DATA

DATA